

軍事極秘

自昭和十九年六月二十三日
至昭和十九年六月三十日

陣中日誌

獨立混成第十五聯隊第二大隊



27203

第十 陣中日誌例式

第十 陣中日誌ハ左ノ諸部團隊ニ依リ作ルベシ
 大本營ノ各部(師團部ヲ除キ)高等司令部(編制上ノ各部ニ屬スル
 ルモノハ其各部毎ニ但シ師團部ヲ除ク)兵站監部ノ各部、兵站司
 令部、聯隊大隊獨立中隊、砲兵隊、隊列、砲臺、團衛隊、砲臺、砲
 立砲臺、電信隊、衛生隊、病院、監視隊、兵器廠、豫備員、豫備廠、
 患者輸送部、馬廠

留守司令部及補充諸部隊ノ各隊ノ區分ニ應ジテ留守日誌ヲ
 作リ首トシテ第三項ニ掲グル事項ニ準ジテ記載スルベシ

第三 陣中日誌及留守日誌ノ諸部團隊員令受領自筆ノ記載
 スヘキモノトス

特別部隊等ニ在テハ先ツ到着セシ將校又ハ同相當官之ヲ記載シ始
 メ後ニ之ヲ主筆者ニ補記セシメテ之ヲ終ラセ

第三 陣中日誌及留守日誌ノ諸部團隊員令受領自筆ノ記載
 スヘキモノトス

甲、各人若クハ諸部團隊ノ經歷若クハ遭遇シタル實況ヲ記載シ
一ニハ戰史ノ用ニ資シ一ニハ各人ノ勤務ヲ他日銓衡スルノ參
考ニ供ス

乙、編制、教育、補充、給養、衛生、武器、彈藥、器具、材料、被服、裝具
等凡テ軍事ノ關スル事物ノ變遷ヲ詳細ニ記録シ將來改良ノ材料ト爲ス

第四 甲ノ目的ヲ達セシムル爲メノ諸事ヲ注意シテ記載スヘシ

一、命令、訓令、通報(機密事項ハ記載スルモ、軍用ニ必要ナルモノハ、軍部ニ報告スルコトヲ附記スヘシ)

二、每日ノ位置(其地ヲ去テ某地ニ留ル等)

三、行軍、宿營、關係スル諸事

四、戰鬥ノ經過(戰鬥ノ結果ハ、未ダ決定セザルニ付、戰鬥ノ經過ハ、詳細ニ記載スルコトヲ要ス)

五、戰鬥間ニ生シタル諸事

以上ノ諸事ヲ記スルニ於テ時刻ヲ詳記スルコトヲ要スル可キ事ニ關シ自己ノ部隊ニ影響セザル事項ハ、天候、地形、險易、道路、人員、口、家、多小等ノ類ハ、簡短ニ附記セサル可ラス

第六 所屬セシ軍隊ノ區分(第六師團ノ所屬各部隊ノ先頭班ヲ指ス)

七、人員ノ異動

轉任、死傷等將校ノ官名ヲ録シ、兵卒及馬匹ハ兵數ヲ録ス

八、休戰中ノ宿營

九、野戰作業等ノ施設

十、其他凡ソ其一日間ニ生セシ緊要ノ事項

第五 乙ノ目的ヲ達セシムル爲メノ諸事ヲ注意シテ記載スヘシ

一、武器、彈藥、器具、材料、被服、裝具等ニ關スルコト

二、編制及諸規令ノ作戰上ニ及ホシタル影響等

三、補充、給養及衛生上ニ關スルコト

四、教育及軍紀ニ關スルコト

五、非常ノ時機ニ際シテ爲サレタル非常ノ處置例ハ敵地ニ在テ

在民ニ多額ノ金ヲ課スル等

第六 高等司令部ノ命令、訓令、通報等

ニ送呈セル報告、詳報其他死傷表、武器彈藥消耗表、前哨等ヨリ至レル報告等ハ凡テ其要領ヲ摘ミ、記事ノ後ニ低書シテ参照ニ備フヘシ、但各原本ハ種類毎ニ一括シテ保存スヘシ、
 秘密ニ屬スル特別任務等ニシテ當時之ヲ日誌ニ掲載スル能ハサルモノト雖モ其妨ヲキニ至テハ成ルヘク詳細ニ其顛末ヲ記載スルモノトス
 第七 凡ソ此ノ日誌ハ月日時(順序ヲ遠セ)ト地名トヲ明記セサル可ラス而シテ諸部團隊ノ長(或ハ參謀長)之ヲ照檢シ、毎日記載ノ結尾ニ捺印或ハ華押スヘシ
 第八 此日誌ハ諸部團隊復員完結ノ日ヲ以テ終局ト爲シ直ニ一本ヲ騰寫シ順序ヲ經テ陸軍省ニ原本ハ其部隊ニ格納スヘシ、陸軍省ハ此日誌中ヨリ所要ノ事項ヲ抄録シテ之ヲ保存シ他ハ皆參謀本部ニ送り、之ヲ陸軍文庫ニ格納スヘシ
 第九 此例式ハ心ニ付、日誌ノ卷首ニ粘付スヘシ

陸軍

六月二十三日
晴

一、昭和十九年六月十六日陸軍機密第二九〇號ニ依リ假編獨立混成第一五聯隊臨時編成ヲ下令同年六月二十三日編成完結ヲ令セラル

編成差出部隊左ノ如シ

- 大隊本部 東部第五〇部隊 関 中尉以下元名
- 第四中隊 東部第四八部隊 大門中尉以下三名
- 第五中隊 東部第四九部隊 西村中尉以下三名
- 第六中隊 東部第五〇部隊 森岡中尉以下三名
- 第一機関銃中隊 東部第四八部隊 小倉中尉以下五名
- 二、各本部中隊ハ各々衛戍地ヨリ先任者ノ引率ヲ以テ六月二十三日迄ニ編成擔任部隊タル東部第六部隊ニ集合
- 三、編成擔任官タル

三、六月二十三日、東部第六部隊營長於テ編成擔任官タル

訓

示

四

軍容検査ニ際シ

如シ

東部第六部隊長ノ

軍容検査ヲ受ク

訓示別紙

訓示別紙

訓示別紙

訓示別紙

訓示別紙

訓示別紙

訓示別紙

訓示別紙

(納谷英・京東)

別紙

訓

示

茲ニ宮第七八三六井上部隊ノ編成ヲ完了シ諸
 官ノ壯容ニ接シ一言スルハ本職ノ寔ニ欣快ト
 スル所ナリ
 惟フニ東西ノ戦局日ニ苛烈ノ度ヲ加ヘ敵ハ既
 ニ帝國領土ニ侵入シ本土ヲ空襲スルノ暴擧ヲ
 敢テシ驕傲其ノ極ニ達ス實ニ攻勢撃滅ノ好期
 ナリ
 此ノ秋ニ方リ新ニ編成ヲ終ヘ裝備ヲ整ヘ皇國
 保護ノ大任ト絶大ナル國民ノ輿望トヲ双肩ニ
 擔ヒ近ク第一線ニ馳セントスル諸官ノ責務々
 眞ニ重大ナリト言フヘシ

宜シク負荷ノ重責ヲ銘肝シ日夜聖諭ヲ奉體實
 踐シ至嚴ナル軍紀ノ下團結ヲ鞏固ニシ必勝ノ
 信念ヲ堅持シテ敵擊滅ニ邁進シ以テ聖慮ヲ安
 シ奉ランコトヲ期スヘシ
 終リニ臨ミ諸官ノ士氣愈々旺盛ニシテ克ク異
 域ノ困苦ニ堪エ武運益々長久ナランコトヲ祈
 ル

昭和十九年六月二十三日

東部第六部隊長 永澤正美

陸軍

五、兵部ノ軍容檢査終了後大隊長要員命課
 大隊長要員 陸軍大尉 井上清公
 茲ニ假編獨逸連隊第一連隊隊第二大隊編成完
 結スルニ付、檢査終了後、各隊員ノ士氣ヲ
 訓示スルニ付、大隊長要員着任ニ際シ部下ニ與ヘタル訓示左ノ
 如ク

編成完結ニ際シ、與ヘタル訓示

予ハ大隊長并シ大隊長ヲシテ、
 皇國大戦ノ重大時局ニ際シ、各隊員ノ士氣ヲ
 守護スルニ付、各隊員ノ士氣ヲ守護スルニ付、
 以下編成完結ニ當リ注意スルニ付、
 我等ハ陛下ノ聖慮ヲ奉體實
 踐シ、至嚴ナル軍紀ノ下、團結ヲ鞏固ニシ、
 必勝ノ信念ヲ堅持シ、以テ聖慮ヲ安シ奉ランコトヲ期スヘシ
 終リニ臨ミ、諸官ノ士氣愈々旺盛ニシテ、
 異域ノ困苦ニ堪エ、武運益々長久ナランコトヲ祈ル

實業ニ資スルニ付、神皇萬葉集ヲ志スルニ陛下ノ御期ヲ

信賴ニ副ヒ奉ラシコトヲ期セヨ

二、速ニ今ヨリ以上血盟的團結ヲ結成スヘシ團結戰力ノ基ナリ

三、至嚴ナル軍紀ヲ確立スヘシ

幹部ニ對シテハ信賞必罰ヲ要求ス、眞キモノニ蓋ラズヘカラス、公明正大ニシテ兵ハ神矣、本分ヲ自覺シ、一瞬ノ油斷ヲ爲ス不測ノ汚名ヲ受ケルナカレ、四寸服ヲ惜ミ、猛烈ニ奮勵ヲ行ハヘシ

幹部ハ目前ノ愛ニヒカレ大乗ノ愛ヲ過クルヘカラス、汗ヲ流サズシテ血ヲ流スナカレ、訓練ニ於テハ必ズ勉ニスヘシ、兵ハ幹部カ諸氏ヲ叱咤激勵スルハ諸氏ヲシテ、疾ニ大死セシメス、眞ノ忠節ヲ盡サシメシカ、爲シテ大愛ヲ入、眞意ヲ諒解シ、黙々トシテ、幹部ヲ續行スヘシ、ハ五、健康ニ注意

身體、強健ハ百風ノ基ナリ、之ナクシテハ任務達成ハ出來難シ

自己ノ不注意ヨリ病ニ冒サル、ハ不忠ノ臣ナリ、尚進テ猛訓練ニ耐ニ先ツ體力氣力ノ養成ニ特ニ注意スヘシ

昭和十九年六月二十三日

大隊長 井上大尉

訓 示 七、獨立混成第一五聯隊第二大隊編成完結ニ際シ、東京師團團長恒憲王殿下ヨリ、與ハラレタル訓示別紙ノ如シ

連絡ノ上設營ニ任スヘシ
 四、本部各中銃隊ノ左記如ク人員ヲ差出シ會合中尉ヲ
 尉ノ指示ヲ受クヘシ
 大隊本部 下士官二 兵二
 各中銃隊 下士官一 兵五
 五、貨物自動車ニテ荷物運搬ニ爲各中銃隊ノ表各
 一名二四日〇七〇迄本部前ニ差出シ富田中尉計
 尉ノ指示ヲ受クヘシ
 六、荷物輸送ノ細部前ニテ富田中尉計
 實施スヘシ
 七、給養八四日夕迄東部第六部隊ノ給養ニ依ルモ大
 八、本輸送間ノ輸送指揮官ハ森岡中尉トシテ
 九、予八四日〇八〇以後習志野東廠舎ニ在リ
 大隊長 井上大尉

井上

勤 勞 員

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム
 日道下士官 陸軍軍曹 藤井光男
 將校以下 三名

教 育 員

一、大隊將校(輸送指揮官先發者ヲ除ク)ハ東京師團行
 二、將校集合教育ニ出場スル者
 三、善福寺發電
 車ニ依リ〇八〇習志野東廠舎(左記教育ヲ
 受ク)

行 動

自〇九〇〇 米軍橋頭堡ニ對シ夜間攻撃ヲ要領
 至一二〇〇 候敵聲或シ障碍物ノ處理要領
 至一六〇〇 候敵聲或シ障碍物ノ處理要領
 教官 陸軍少佐 阿部英治 横井大尉
 大隊長 井上命 陸軍少佐 森岡中尉 藤井光男
 善福寺發電機 濱町 省電機 六〇〇 習志野東

廠舎ニ到着ス

三、荷物の富田主計中尉指示ニ下士官一兵九名有
動貨車ヨリ夫々習志野東廠舎ニ運搬ス

命令四、井日命第一號

井上隊命令

六月廿四日

陸軍主計中尉 富田良夫

命令五、井日命第二號

井上隊命令

六月廿五日

認識票記名、為明三日東部第六部隊ニ由來ノ命ス

一、六月二十四日美日命ニ基キ第二大隊衛兵中隊並服
務日ヲ左ノ如ク定ム

六月二十五日

第五中隊

六月二十八日

第六中隊

七月一日

第四中隊

井上

宿營地
勤務
人員

六月廿五日
教育

二、各中隊之勤務者ヲ左ノ如ク差出ス

本部一、各中隊ニ機關銃隊一

明朝食後、服務ス

習志野東廠舎

日直下官 陸軍軍曹 濫原茂信

將校以下三名

一、將校集合教育者ヲ左ノ如シ

自。九。時。始。機。關。銃。隊。要。領

自。一。時。始。近。接。戰。闘。對。戰。車。戰。闘。接。進。奇。襲。要。領

教育者前同

二、下士官以下若洲東廠舎ヨリ、習志野東廠舎ニ

運搬ス。此。時。機。關。銃。隊。要。領。前。同。機。關。銃。隊。要。領

自一四〇〇。分隊陣地攻撃(工事ヲ實施シテ行ハス)
 至一七〇〇。三聯隊長美田大佐着任ナルニ至リ。將校中告アリ
 統率方針ヲ示サル左ノ如シ

- 1 戦力充實
- 2 敢闘精神發揚
- 3 軍紀確立
- 4 健康第一
- 4 大隊長本待命間教育ニツキ左ノ如ク指示ス

- 1 精神教育
- 1 團體觀念ノ昂揚
- 1 死生觀ノ確立
- 1 戰鬥間兵ニ對シテ心得
- 2 戰鬥最ニ慘烈ナルトキニ處置
- 2 對遺棄訓練(日米軍統制子早降漂流訓練)

陸上

宿營地
 勤務
 人員

六月二十六日
 訓示

3. 對空戰鬥(發射機)對戰車戰鬥
4. 銃不城(廣習ニハスニ事ヲ行ハシム)
5. 衛生法(注意法)

習志野東廠舎
 日道下士官 陸軍軍曹 仲條嘉春
 將校以下三〇名

一 聯隊長美田大佐〇八〇〇ヨリ東新廠舎營地ニ於テ
 將校一同ニ對シ着任ノ訓示ヲ行ハル旨左ノ如シ

1. 兵ニ對シ
- 1 敢闘精神昂揚
- 1 試技戰技練磨
- 1 健康第一

2. 幹部ニ對シ

イ 現學園ヤ集結ヲ結成スヘシ

ロ 種別訓練ヲ行ハシ

教育

ニ 將校集合教育ヲ如シ

自〇九〇〇 海岸防禦戰闘

至一三〇〇 海上監視、重要領ヲ築城

至一六〇〇 教官前日ニ同シ

教官前日ニ同シ

三、下士官以下ハ岩淵軍曹指揮シ午前午後交代ニテ出場徹底セル疎開匍匐ヲ以テスル分隊陣地攻撃ヲ行フ

四、一六〇〇時大隊長大隊下士官以上ニ對シ夜間攻撃ノ

要領ヲ現地教育ヲス

命令五、并日命令第三號

井上隊命令

六月二十六日

一、四日聯隊命令ニ基テ第一回豫防接續ヲ左記ニ

依テ實施ス

順序 本部 4. 5. 6. 2MG 11L

場所 第二大隊本部兵舎

時間 訓示終了後

二、五日聯隊命令ニ基テ荷物集積ノ為ニ如ク

人員ヲ差出ス

本部 兵一

第四中隊 兵二

第五中隊 下士官一兵二

第六中隊 兵二

第七機關銃中隊 兵二

右用務兵八第五中隊日付下士官指示ヲ受クニ

集合場所 大隊本部前

(廿七)

宿營地
勤務員

三、荷物貯蔵荷札各隊毎に手配スヘシ
 四、各隊ハ〇七〇迄ニ運搬スヘキ荷物個數並に設置ス
 ハキ荷物個數ヲ報告スヘシ
 五、荷物掛下士官ハ聯隊本部ト連絡シ右荷物
 運搬ニ任スヘシ
 習志野東廠舎
 日直下士官 陸軍軍曹 藤井光男
 將校以下 三〇名

六月二十七日
衛生
教育

一、〇八〇〇ヨリ赤痢豫防接種第一回ヲ實施ス
 二、〇九〇〇ヨリ大隊長將校對シ夜間攻撃ノ要領對
 空射撃ノ要領ノ幹部教育ヲ行フ
 三、一三〇〇ヨリ關中尉以下士官以下對シ我國體就テ

(廿八)

宿營地
勤務員

戰闘間兵一般ノ心得ニシテ精神訓話ヲス
 習志野東廠舎
 日直下士官 陸軍軍曹 宮崎啓二
 將校以下 三〇名

教育

一、二〇〇ヨリ廠舎北側ニ於テ東部第九部隊ノ協力を得
 テ對戰車肉薄攻撃ノ訓練ヲ行フ
 二、一〇〇頃東京師團中島參謀來隊セラレ軍令
 ニヨリ第三大隊要員ノ交代ヲ實施サル 交代部隊
 ハ二一〇頃逐次到着左ノ如ク夫々交代セヨク之ヲ
 完了ス

隊員	中隊長	小隊長	曹長	班長	兵	計
大隊本部員	同	同	同	同	同	同

第四中隊	一	一	一	四	一五	二二
第五中隊		二	一	九	一五	二七
第六中隊	一		一	七	一五	二六
第七中隊			一	四	一〇	一六

計九一名

三、新二東部四八、四九、五〇部隊、轉屬歸還スハキ小倉中尉以下九一名ハ一七三〇聯隊長大隊長、訓示ニ度ク失々原隊ニ出發ス

衛 生 四、一三〇ヨリ三種混合第二回豫防接種ヲ實施ス

所 將 來 二 對 多 見 五、本日、如ク編成完結後ニ於テ各中隊長以下多數要員、交代ヲ見タルハ國軍ノ大局的見地ヨリ已ムヲ得サル事ナリト雖モ部隊將兵一同ニ與ハタル心理的動搖見カセ得サルモノアリ
勳員中今ニ際シ當初ヨリ斯クノ如クナカラシメンカ爲

編成上ノ確固タル指示ヲナスヲ要ス

六、西〇美作命第一號下達サレ部隊ハ第三三軍ノ指揮ニ入り南西諸島ノ防衛ニ任ヌハキヲ承知ス

習志野出發ハ七月一日ナルヲ以テ部隊ハ徹夜ヲ以テ荷物、梱包並津田沼驛ニ輸送ヲナス

習志野東廠舎

日直下士官 陸軍軍曹 藤井光男

將校以下三〇名

宿營地
勤務
人員



見士	衛生	少尉	中尉	主計	中尉	大尉	副官	大尉	大尉	大尉	第二大隊將校職員表 昭和元年六月九日
野澤章	古賀明	富田良夫	関太郎	山下寛治	井上清公	大隊長	大隊長	大隊長	大隊長	大隊長	
2MG	6	5	4	中尉	中隊長	中隊長	中隊長	中隊長	中隊長	中隊長	
梅木忠次	田中成滋	西村又次郎	大門正三	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	
		森岡大二									
川合次二	中野清市	田村忠藏	原田政治	今本喜作	義井静夫	神谷秀雄	長越友雄	間片謙三	少尉	少尉	

第一大隊
 第二大隊
 第三大隊
 第四大隊
 第五大隊
 第六大隊
 第七大隊
 第八大隊
 第九大隊
 第十大隊
 第十一大隊
 第十二大隊
 第十三大隊
 第十四大隊
 第十五大隊
 第十六大隊
 第十七大隊
 第十八大隊
 第十九大隊
 第二十大隊
 第二十一大隊
 第二十二大隊
 第二十三大隊
 第二十四大隊
 第二十五大隊
 第二十六大隊
 第二十七大隊
 第二十八大隊
 第二十九大隊
 第三十大隊
 第三十一大隊
 第三十二大隊
 第三十三大隊
 第三十四大隊
 第三十五大隊
 第三十六大隊
 第三十七大隊
 第三十八大隊
 第三十九大隊
 第四十大隊
 第四十一大隊
 第四十二大隊
 第四十三大隊
 第四十四大隊
 第四十五大隊
 第四十六大隊
 第四十七大隊
 第四十八大隊
 第四十九大隊
 第五十大隊
 第五十一大隊
 第五十二大隊
 第五十三大隊
 第五十四大隊
 第五十五大隊
 第五十六大隊
 第五十七大隊
 第五十八大隊
 第五十九大隊
 第六十大隊
 第六十一大隊
 第六十二大隊
 第六十三大隊
 第六十四大隊
 第六十五大隊
 第六十六大隊
 第六十七大隊
 第六十八大隊
 第六十九大隊
 第七十大隊
 第七十一大隊
 第七十二大隊
 第七十三大隊
 第七十四大隊
 第七十五大隊
 第七十六大隊
 第七十七大隊
 第七十八大隊
 第七十九大隊
 第八十大隊
 第八十一大隊
 第八十二大隊
 第八十三大隊
 第八十四大隊
 第八十五大隊
 第八十六大隊
 第八十七大隊
 第八十八大隊
 第八十九大隊
 第九十大隊
 第九十一大隊
 第九十二大隊
 第九十三大隊
 第九十四大隊
 第九十五大隊
 第九十六大隊
 第九十七大隊
 第九十八大隊
 第九十九大隊
 第一百大隊

六月二十九日
晴

行
動

一、富田生計中尉、田村少尉以下三名先發トシテ本軍朝
門、司高ト出發ス

二、森岡中尉ハ荷物塔載批トシテ津田沼ニテ列車ヲ塔載ス

三、美田命第六號ニ依リ假編獨立混成第五聯隊ニテ

獨立混成第五聯隊ヲ編成セラル(六月二十四日付)

命
課

四、大隊長要員以下ノ各將校ハ同日付ヲ以テ各大隊長以下
各職ヲ命課セラル

五、部隊ハ全カヲ以テ出發準備ヲナス

六、
陸軍兵技軍曹 駒津嘉春

右者急性大腸炎ヲ疑フテ習志野陸軍病院ニ入院
セシム

宿
營
地

習志野東敵舎
日直下士官 陸軍軍曹 仲條嘉春

勤
務

六月二十九日
晴
富田生計中尉、田村少尉以下三名先發トシテ本軍朝
門、司高ト出發ス
森岡中尉ハ荷物塔載批トシテ津田沼ニテ列車ヲ塔載ス
美田命第六號ニ依リ假編獨立混成第五聯隊ニテ
獨立混成第五聯隊ヲ編成セラル(六月二十四日付)
大隊長要員以下ノ各將校ハ同日付ヲ以テ各大隊長以下
各職ヲ命課セラル
部隊ハ全カヲ以テ出發準備ヲナス
陸軍兵技軍曹 駒津嘉春
右者急性大腸炎ヲ疑フテ習志野陸軍病院ニ入院
セシム
習志野東敵舎
日直下士官 陸軍軍曹 仲條嘉春

人員

將校以下二九名

六月三日 晴

一、〇八〇〇ヨリ東京師團參謀來隊師團長官殿下訓示傳達式ヲ行フ

命令二、井作命第二號

井上隊命令

六月三十日二〇〇
於習志野

一、美作命第一號別紙共一基久員輸送計畫左如シ

備考	輸送回次			
	第一回	第二回	計	計
先發本部當主計中尉陸軍曹尉少尉各隊兵四	8	6	2	14
後發本部官時軍曹各隊兵四	32	31	1	64
	123	121	2	244
	123	121	2	244
	0	0	0	0
	286	279	7	565
	19	16	3	38
	93	90	3	186
	2	0	2	4
	1	0	1	2
	46	42	4	88
	161	148	13	322

人員

勤務員

四、部隊ハ引續キ出發準備ヲナス
習志野東廠舎
日直下士官 陸軍軍曹 岩刈亮一
將校以下二九名

三、美日命第七號拔萃左ノ如シ
一、右者六月三〇日付東部第六四部隊ノ轉屬ヲ命ス

二、陸軍少尉 義井靜夫
大隊長 井上大尉

本輸送間大隊副官代理ヲ命ス

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム